

嘘を言つて子供に或る行爲をさせる事次が猜疑的態度以上の三項目は子供をして自ら嘘を覚えさせる大人の罪である。『甘酒進上此處迄お出で』など云つてチヨロ／＼歩きの子供を利慾で釣り出し折角其處まで危なげに歩いて來ると又手をたゝいて逃げて仕舞ひ甘酒進上を行つて居るやうなのは大人の嘘の教唆に屬するもので一方には小兒步行上の利益はあらうが子供の嘘を言ふ點からは大に一考を要すべき事と思ふ。

(完)

幼稚園問題二つ三つ

和田 實

是は過般本會六月常會に於て記者の講演したるもの、筆記です。多少不備の點もありましたので少し訂正を加へましたから其御積りで御覽下さい。

一 幼稚園の任務

本日は別段耳新らしい事を御話すると云ふ譯ではありませぬが唯平常考へて居る一つ二つを御話して御批評を得たいと思ふのであります。第一に御

話したいと思ひますのは幼稚園の任務と云ふことに就いての一種の解決案であります。勿論幼稚園の仕事と云ふものは如何なるものであるかと云ふことに就いては色々の方面から色々に説明をしなければなりません。が其中の一つの考へ方に就いて申上げて見たいと思ふのであります。

御話をする順序として先づ御断りしなければならぬことは幼稚園教育と云ふこと、幼兒教育と云ふこととの意義は全く同一でないことと云ふことであります。是二つのものを混同することは色々と間違を起すもとでありますから能く注意しなければなりません。一体幼兒教育と云ふのは子供の生れ落ちてより學校に入る迄即ち學齡以前に於ける幼兒の教育の全部を含んで居ることと幼稚園教育と云ふ時は其幼兒教育の後半を占めて居る一部分の教育を云ふのであります。そこで此幼稚園の教育に就いて今日でもまだ半信半疑の狀態に居る人が教育者の中にも決して少くない様であります。併し是はだん／＼詮じ詰めて行くと誠に道理のないことになるのであります。或は幼稚園教育の効

果は面白くない。故に子供は學齡に達する迄は放任して置く方がよいなど云ふ人がありますが是も明かに間違つた議論であります。何も一部分である所の幼稚園教育が面白くないからとて幼児教育の全部を捨て、しまふ必要はない譯であります。翻つて世の父兄達は幼児を如何に取り扱つて居るか云ふと多少なりとも教育と云ふことを解して居る人は何れも之を教育的に取扱つて居るので決して學齡に至る迄全然放任して置くこと云ふ様な人は多少考へある人のして居る所ではありません。故に人に因つて多少程度の差違こそあれ幼児の教育が事實として行はれて居ることは確かなことであります。然るに幼稚園不賛成の聲が多くは斯る幼児教育に熱心な人の側から出て來ることのあるは如何にも辻褄の合はぬことであります。幼児教育は大に骨折らなければならぬが幼稚園は不賛成であること云ふのは如何なる理由であらうか。畢竟するに是は幼稚園の教育法は幼児教育上有害なりとするに歸さなければなりません。幼児教育場としての幼稚園が幼児教育上有害であると云ふこと

はつまりは幼稚園の施設と其教育法とに誤りがあるからだ云ふことに過ぎないので是は幾等も改良する餘地のあることだらうと思ひます。して見ると幼稚園と云ふものに對する反對説は根本からのものでなくて唯方法上のものであり、方法が改良された時は議論はなくなる所のものであると云はねばなりません。斯く論じて見ると茲に一つの疑が起る。夫れは外でもない。幼児教育の一部分として何故に幼稚園の施設が必要であるかと云ふことである。幼児教育は家庭でして居つたらば充分でありそうなものだのに何故に種種の設備を要するかと云ふことが従つて生ずる疑問である。是が今日私の御話をしやうと思ふ所以である。元來幼児の活動と云ふものは年と共に其勢力の強さと活動の範圍と思慮の深さを漸次に擴張して來るもので、其三、四才の頃からは如何に完全な家庭でも逆も此幼児の活動の範圍と強さと深さとに應じられるものではありません。一口に云つて見れば幼児の生活状態は最早家庭生活の狭き範

園には堪え得ないものであります。そこで幼稚園は幼児の比擴弱されたる生活に應ぜんとするもので是が幼稚園の存立する所以であります。試みに幼児を家庭内に閉ぢ込めて置いて御覽なさい始めの中は別段のこともなく濟んで行きますが三四才の頃となると逆も家庭の陔い範圍では我慢出来ないで子供は家庭外に生活を求め様とするに極まつて居ます。之を無理に壓制して出来ないことはありませんが其うすると共に色々の缺點を表はすことは固より當然のこと、云はねばなりません。彼幼稚園にも出さず近所の子供と遊ばせもしなかつた所の子供の始めて學校へ来た時の様子を調べて御覽なさい。必ず色々の缺點が表はれて居るのであります。是は誠に止むを得ないことであります。幼児教育は斯様に家庭外の生活に向つて擴張して来るもので幼稚園は此要求に應じて家庭以外の材料を遺憾なく採取すると云ふ覺悟がなければなりません。是が幼稚園の大なる任務であります。然るに従來の幼稚園は此點に於ても甚だ遺憾なことが多かつたと思ふのであります。以上が幼

稚園の任務と云ふことに就いて御話申上様と思つた大要であります。序に今少し申上げて置きますが、然らば幼稚園と云ふものは必ず家庭以外特別の場所に公設しなければならぬものであるかと云ふに私はそうは考へません。若し家庭が費用を惜まないならば家庭内に附屬した小さな幼稚園を作つて近所の子供とか親類や知己の子供とか云ふ様なものを五人乃至十人位集めることが出来たらば夫れは此上もない都合のよい幼児教育場であらうと思ひます。併し是は云ふ可くして行ひ難いかも知れません。併し兎に角議論の上では不可能のことではありませぬから家庭が斯る種類の設備をするならば今日の様な幼稚園は上流社會や富豪社會からは漸次排斥せらるゝであらうと思ひます。斯うなると公設幼稚園と斯る家庭教育場の差異は一方は専門の教育家が遣る所一方は家庭の素人が遣る所と云ふことになつて兩者の差は甚だ少い様にならうと思ひます。併し其差は少ないながらも一方は保母と云ふ職業に對した丈でも家庭の人に劣るとか負けるとか云ふ

ことは面目ない話ですから吾々幼児教育者は大に修養に努めなければなりません。

二 幼児教育の概観

次に御話申そうと思ふことは幼児教育の概観即ち一口で云へば幼児教育は如何なることをして居るのかと云ふことに就いての私の見解を御話しやうと思ふのである。之も充分に議論し様とする。色々な方面から論ずる必要がありすが今は唯其一方からの見解を御話しやうと思ふので有ます。そして夫れに就いて多少注文したいことを御話し

て見たいと思ひます。大體に於てフレーベル先生の教育主義は之は何時までも變らぬ完全なもので有ります。即ち幼児の教育は其自發活動を發展せしむることに因つて計られなければならぬと云ふことで有ります。是は誠に千古に輝く可き卓見では有りますが併し現在の幼児教育は遺憾ながら此フレーベル先生の主義を充分に實行して居ないので有ります。何故實行して居ないかと云ふと此罪は遺憾ながら亦フレーベル先生に歸さなければなりません。夫れはまた

何故であるかと云ふとフレーベル先生は子供の發展の方面に就ては大に研究され組織されては居るが其發展の活動の前に受領的收得的の段階があるると云ふこと及び其が遊戯の上に如何に表はる可さかに就いては餘り詳しく教へられて居ない。従つて其方法的組織と云ふものは一方に偏よつて主として發表的の方面で整頓せられ組織せられて居ります。併しながら發表せられ可き觀念は何時如何にして受領せられたか又此受領的の方面は毫も顧みるの必要なきものであるか是等は大に研究せらる可きものであるが從來は餘り重きを置かれて居ません。尤もフレーベル先生が此方面を餘り重く考へなかつたと云ふことは先生の時代と境遇から云ふと實は無理のないことで有ります。先生はベスタロツチの處へ行つて直觀主義の教授法を學んだので有りますが先生の慧眼は早くもベスタロツチの教授法の徒に形式に拘泥して其眞價の乏しさを發見されて之れを改良して一層根本的に教育の眞髓を捕へんとせられましたので従つて其缺點を見るに急にして其長所を併せるの餘裕がなかつ

たものと云はなければならぬ。纏つて現在の保育状態を見ると手技と云ひ遊戯と云ひ何れも發表させるると云ふことには大に努めて居られる様ですが夫等の觀念の内容は何れの時に入れられたかと云ふと殆んど答へに窮する様な有様であります。併しながら發表がある前に必ず受領がなければなりません。想像の前には必ず直観があつて觀念の内容を充實するものであります。之を幼児の實際に徴して考へて見るに幼児が始めて新語を操ると云ふのは何時も少くも二三ヶ月前より其言葉聞いて居るものであります。若し子供に聞かすと云ふことがなければ子供の言語は一向發達しないものであります。要するに幼児には發表させる前に探り入れさせると云ふことに先づ注意しなければなりません。併し私の此考へは單に理屈の上から話ではあります。實際の上から考へては當前のことのように思はれます。先日或幼稚園の人が私の所へ見えましての話に「私は保育上に一大發見を致しました。」と云ふので私は大變興あることに思つて一大發見とは夫れは何んなことでずか

と聞いて見ると其人が云ふのに「總じて子供に見せて置くと云ふことは既に保育の半ばをなしたるものである」と云ふことでした。此人の實際上の發見は私の主義を有力に證明するので甚だ心持よく感じました。勿論茲に御出での方の中には夫れ以上の見識を持たれて御出の方の方も多々ありませうが兎に角歴史上に缺陥ある所のものを實際上から補ひ出すと云ふことは流石は實地熱心家の名に背かぬことゝ感心致しました。

一つ二つ實際の例を以て之を説明して見ると例へば唱歌の如き今日何處の幼稚園でも殊更に教へて居る所はあります。子供の方から云つて見れば幼稚園の唱歌は教へらるゝ前に既に聞き覺えに覺えて居るのであります。若し子供が教へらるゝ其日迄唯の一度も聞いたこともないと云ふ様では決して直に唱ひ得るものではありませぬ。若し唯の一度も聞かせずに於いてそれで直に能く出來さすと云ふものがあるならば其は非常なえらい教育法であります。之を小學校の教授に就て考へて見ても私の少ない經驗から考へても之を教授せんと

する日迄何等の關係したとも記さずには置くと云ふよりは地理でも話し歴史でも話し讀本の中にもあつたと云ふ様なものゝ方が極めて能く覺え且興味

あるものであります。之を要するに私の見る所に因ると「フレール先生」の自發活動主義は誠に結構ではあるが實際の法は組織が不完全である。之を完全にする必要が「ある」と云ふのが私の意見で、つまり幼児教育は幼児の自發活動を完成せしむるにありと云ふことで出來ます。

次に今一つの御話したいことはフレール先生の恩物に對する私の見解であります。教育史上の大家である所のフレール先生に對して後進の青仁方が議論の鋒先を向けるなどは甚だ潜越な次第ではあります。既に先輩の人々も一方に頑固な守舊派があるにも係らず或は批評的に或は實驗上よりして一部の改良を唱へて居る以上は自分はこの對して如何に覺悟しなければならぬかと云ふことの問題に答ふる爲めに少しばかり考へた事がありましたので其中の一方面に就いて御話して見様と

見しす。元來恩物と云ふもの出來ました由來とも云ふ可きはフレール先生が數十年の間都卓の所々の幼児を觀察して其共通の習慣やら傾向などを察して最も代表的なる玩具を選んで之を組織的に整頓し排列したものが即ち恩物なのであります。此代表的玩具を選定したと云ふことや之を組織的に整頓し排列したと云ふことは流石にフレール先生の卓出せる教育家たる所以で教育上空前の美事に相違ないのであります。併しながら今日の人も必ず此フレール先生の恩物を其儘に守らなければならぬであらうか否かと云ふことは餘程考へなければなりません。私はフレール先生を尊敬するにとに於ては敢えて人後に落ちない積りではあるが去りとして恩物其物には敢えて盲従はしたくないと思ひます。何故と申せばフレール先生が恩物を作られた時は今より六十一年の昔しでありました。六十年後の今日から申せば學問の進歩の度合は逆も比較にならぬ位である上に玩具自身の方から見ても既に大なる差違があるのであります。斯く異つ

た時代の玩具を持つて来て直に今日の玩具とした
 り或は其整頓法を其儘今日に應用しやうと云ふこ
 とは少し無理なことではありませぬか玩具は
 産物風俗習慣等の變化に連れて變化し其組織的理
 論は學問の進歩發達に連れて發達す可きものでは
 ないでせうか、若し果して然りとするならば代表
 的玩具の内容は世と共に變化し其組織的理論の進
 歩は學問の進歩と共に變化す可きものと云はねば
 なりませぬ。然るに一方にはフ氏の恩物を頑固に
 守らうとする人がある。甚だしきは積木其他の玩
 具の寸法迄も日本の寸を用ゐてはならぬと云ふ頑
 固な人もある。日本人を教育するに日本の尺度を
 遣つてはならぬと云ふなどは頑固も越り越して少
 しく滑稽であるが夫程迄に至らなくとも恩物を頑
 固に守らうとするのは果して如何なる考であるか
 判らぬ。そこで私の恩物に不満足である理由を今
 少し述べて見ると第一に代表的玩具としては其數
 が少ない。數の少ないと云ふことは是に因つて練
 習さすべき身心の局部に限りがある。私は恩物に
 因つて練習さるゝもの以外に未だ練習す可き

ものが發等もあると思ふ。因つて其數はもつとふ
 やす必要がある。第二に恩物は玩具殊に唯發表的
 玩具としての方に偏りよつて居る。唯手技手工と
 しての發表に限つて其他の發表的玩具がない。是
 も代表的玩具としては不完全な理由とするものが
 出来る。第三には恩物殊に第一第二の兩恩物は其
 使用の變化極りなく以て宇宙の萬物、天地人の關
 係、神の存在等を解せしむることが出来ると云ふ
 のであるが果して是丈のことが出来様か何うか疑
 はしいと云はねばならぬ。何故と云ふに元來子供
 が玩具を使用するの法は其如何なる使用の場合に
 於ても必ず二個の場合を出るものでない即ち一は
 之を現實に在りのまゝに用ゐると一は之を想像的
 に使用するものである。而して現實的使用の點より
 前の兩恩物を見るときは其價値の少なきことは何
 も説明を俟たないでも判ることであるから若し此
 恩物がフ氏の考へた様な効力ありとすれば其は必
 ず想像的使用の爲めである。然るに想像的に使用
 して効力あるは其想像の前に於て必要なる諸觀念
 の内容の充實がなければならぬ。云ひ換れば一

度も經驗のない觀念は想像の際に役立つものでは
 ありませぬ。若し經驗のない觀念を用ゐて想像を
 させようなど、考へる人があるならば其は木に據
 て魚を求むるの類と云はねばならぬ。全く空なこ
 とになつてしまひます。して見ると恩物の使用と
 云ふことも畢竟は幼兒の經驗の多少に因つて効力
 に差異があるので恩物夫れ自身で獨り卓効を奏す
 ると云ふ譯には行かないのであります。殊に經驗
 の少ない幼兒に斯様な大きな目的を達しさせよう
 と云ふのは全く架空の事と云はねびなりませぬ。
 私 は フ氏の 代表的玩具を選定したこと及之を理
 論的に排列したことは如何にも善いことで吾々後
 進の學ぶ可き處であるが如何なるものを選び之を
 如何様に排ぶ可きかと云ふことは今日の思想に因
 つて今日の人の定む可きものであらうと思ひます
 之は頓がてフレーベル先生の意志ではあるまいか
 と思ひます。詰らぬことを永々と申上ました。充
 分に御批評を願ひます。



小學校より見たる幼稚園

藤井利譽

十二

明治九年幼稚園の置かれてから三十餘年経過し
 て居る其の後に盛衰消長はあつたらうが今日に
 於ては小學校令の上にも幼稚園教育に關して立派
 に規定があり又全國現在の幼稚園は或は公立或は
 私立のものを含して随分多數である故に形の上か
 ら考へて見れば今日の幼稚園事業は過去三十年の
 歴史の上では可なり盛であるといふべきであるが
 非常に盛なりといふ譯には行かぬと思ふ
 そこで今日の幼稚園を如何なる意義に於て存在
 すべきであるか幼稚園の任務の如何にあるべきか
 は先程和田君の詳細なる御説明で盡されてあるか
 ら重ねて述ぶる煩を避けて余輩は幼稚園の教育は
 如何に家庭が完全に發達しても是非幼兒教育の機
 關としてなければならぬ教育的ものではないと事
 を申したいのである此先き保育の手段や方法を變
 化もし進歩するであらうが家庭と學校との中間